

## リニア沿線紀行

# 品川駅周辺、品川区・港区を歩く

## ～リニアが発発するところ・リニア工事の状況は～

リニア新幹線が開通すると出発駅となる品川駅。当地域の皆さまには品川駅とその周辺は余り馴染みのないところと言って良いのではないかと。新春企画として品川駅周辺の近況を報告する。

### 1. 駅の両側で異なる印象のまち

品川駅に降り立ったのは初めてだが、駅周辺の風景には既視感がある。それもそのはず正月の箱根駅伝では品川駅前の国道25号（第一京浜）を箱根に向けて疾走する選手を中継カメラがこの辺の風景とともに毎年映し出す。あの現場に立っているのだという感慨を抱く。

国道25号線は旧東海道。昔の写真を見ると東海道は、武蔵野台地の裾が緩やかに落ち込んだ先の海岸との境を通っている。明治になって鉄道が敷設されると、線路はその旧東海道と並行して波打ち際というか海の上を走る趣となっている。後にその海は次々と埋め立てられ、海岸線は後退していつて現在では品川駅から1 km余り先になった。

そのため品川駅の西口（<sup>たかなわ</sup>高輪口）という、冒頭写真）と東口（「港南口」頁下写真）では街の印象が大いに違う。西側は駅から一段高いところにシティホテルが格調高げに聳えていたり、江戸時代からの歴史を感じさせる屋並みの住宅街やマンションが多い。高輪といえば赤穂四十七士が眠る泉岳寺は外せない。四十七士、主君浅野長矩公、同夫人らの墓塔を拝する。

これに対し駅の東側は、埋立地に高層ビルが建設されて整然としたオフィス街が形成される。通勤時間帯に駅から出た通勤者らの流れがいくつも枝分かれしてこれらのビルへと吸い込まれていく様は壮観だ。地図アプリで見ると、まず駅東地区の歴史の端緒となる東京都中央卸売市場食肉市場の広大な施設があり、他にNTT、ソニー、日本マイクロソフト、キャノン、コクヨ、といったわが国を代表する企業名を見ることができる。

### 2. 品川駅の賑わいと駅周辺の再開発

品川駅の全体での位置は、まずJR東日本の駅として1日当り乗降客数（国土交通省 国土数値情報データベース・令和3年度）は、441,860人でJR東管内の新宿、池袋、横浜、東京、渋谷各駅に続く第6位。またJR東海の新幹線駅として1日29,589人、因みに東京駅の新幹線同は65,467人となる。これに加え、京浜急行の駅として1日168,324人の実績がある。

このような鉄道交通の賑わいに加え、品川駅付近は再開発事業が猛烈な勢いで進められている。2020年品川駅から1 km弱、徒歩で15分程度の位置に山手・京浜東北線の新駅高輪ゲートウェイ駅が開業。ここにJR東日本により品川駅車両基地跡地の再開発が「国家戦略特別区域諮問会議を経て2019年内閣総理大臣による都市計画決定を受け」（JR東日本HP）で開始された。

現在は、第I期計画として高輪ゲートウェイ駅の周りに4街区の工事が進められる。再開発の内容はオフィスやホテル、コンベンション施設、共同住宅、店舗、インターナショナルスクールと保育所、店舗・レストラン等様々な計画。今後は品川駅方



品川駅東口（港南口） ペDESTリアンデッキが2階層で駅と接続され、各ビルへと移動できる



品川駅西口（高輪口）からの風景  
前の道路は箱根駅伝のコースとなる国道25号



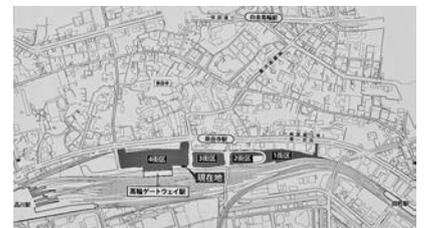
四十七士の眠る播州浅野家菩提寺 泉岳寺



品川駅港南口へ向かう通勤者等



高輪ゲートウェイ駅（左）と再開発現場



再開発の概要を示す表示板

面に向かって更に2街区の開発も構想されている(同)。

品川駅周辺は、これまで東京駅を中心とする都心部からはややはずれた感もあったかと思うが、前述の通り既に主要ビジネス拠点となっており、将来のリニア新幹線開業というイベントを控えることも一因として一層の投資を呼び込んでいると考えられる。

### 3. リニア工事の状況

品川駅のリニア工事の状況は、計画では東海道新幹線の線路下の地下を掘り下げ、その空間に駅の構造物を造る。そのため、駅構内の線路付近に若干の重機や作業員が見られるが、リニア工事の状況は窺えない。駅周辺では、新幹線ホーム線路に接した駅東側の区道で4車線のうち2車線を通行止めにしてその地下で駅設置作業が行われていて、作業員や車両の出入りが見られる。

品川駅から相模原市の神奈川県駅へはリニアは地下(第一首都圏トンネル)に行くが、そのトンネル工事のシールドマシンの発進基地が北品川非常口である。ここから品川駅と神奈川県駅方面を目指して進む。

この非常口は京浜急行で品川駅から神奈川方面に2駅目の新番場駅から歩いたところにある。品川駅より南なのになぜ「北品川」かだが、品川駅は概略図の通り港区にあり、北品川の「北」は本来の東海道品川宿の北方面であることから。

北品川非常口は、目黒川沿い山手通り(都道418号)に面して設置されている。既に立坑は完成し、2021年にシールドマシンの掘削を開始。外環道のシールド工事陥没事故を踏まえてシールド工事の影響を調査するための試験掘削としてだった。昨年8月に非常口から約300mの地点で掘進がストップしたことが判明、J R東海並びに施工JVは原因の究明と対応を進めており、ヤードには「休工中」の表示が出ている。

また、このヤードからの発生土はベルトコンベアで目黒川の対岸に設置された仮置き場(発生土積出ヤード)に運ばれる。ベルトコンベアは、見るとフレームの上下にローラーが並んでいるだけで、まだ本格搬送できる態勢にない。ここからの搬出は、この山手通りをダンプで搬送する計画である。都内でこれ程の面積の確保できたのは驚きだが、工事ヤードの周辺はオフィスビルが立ち並ぶものの、他方で以前「京浜工業地帯」と呼ばれていた頃を窺わせる大小の工場も多く、用地確保に至ったと思われた。

### 4. 品川宿跡を歩いて行くと

北品川非常口から品川駅へと向かう途中に東海道品川宿跡に北品川商店街がある。街道と宿場という歴史遺産を現代の商店街に遺す取り組みをしており、同じ宿場町の掛川市などとの交流事業の成果を商店街の中に展示するなどして商店街の活力を高める。

今回、品川を訪問するにあたり、当地に縁のあるものは、と探したところ、江戸時代飯田藩堀家の下屋敷が港区麻布新堀端にあったことが判る。概略図に★マークで示す。最寄駅は地下鉄三田線白金高輪駅、いずれも高級感の漂う名前だ。ここへは品川からも歩いていけないことはない。他にも品川方面にはいろいろと見所がありそうだ。

リニア開通までの間、「品川」に段々と親しんでいくのも良いのではないか。



品川駅のリニア工事現場



北品川非常口の工事ヤード  
前の道路は山手通り、道路の上に発生土運搬のコンベアが見える



北品川非常口から目黒川を渡って伸びている発生土運搬コンベアと発生土仮置き場



旧東海道に沿って並ぶ北品川商店街

品川区・港区概略図



(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)